600 700 800 900 1000 1100 1200

a 630 ムハンマド アラブ統一
622 ヒジュラ(聖遷)

661 ウマイヤ朝成立
656 第一次内乱

大征服時代

717 ウマル二世即位 税制平等化政策

695 純アラブ式貨幣の鋳造始まる

683 第二次内乱(～692)

b 762 バグダード遷都
750 アッバース朝成立

アッバース朝 黄金時代

869 ザンジュの乱(～883)

836 サーマッラー遷都(～892)

820 イランにターヒル朝成立
809 第三次内乱(～813)

c 908 カリフ象徴化

イラン人宰相・官僚群が実権を掌握

946 ブワイフ朝 バグダード入城
936 イラン系武家政権始まる(初の大総督任命)

d 999 ガズニー朝 東方の統治権を掌握

1055 セルジューク朝 バグダード入城

大セルジューク帝国 黄金時代

e 1096 第一次十字軍襲来(～1099)
1092 スルタン・マリク＝シャー死去

1147 第二次十字軍襲来(～1149)

f 1157 大セルジューク帝国 崩壊
1167 トルコ人 小アジアを支配

1189 第三次十字軍襲来(～1192)

ルーム＝セルジューク朝 全盛
ホラズム＝シャー朝

1221 蒙古軍 中央アジア～イランへ侵攻
1228 第五次十字軍襲来(～1229)

1241 蒙古軍 小アジアへ侵攻

g 1258 蒙古軍 フラグ＝ハン バグダード破壊

アッバース朝の宗教的権威のもと、イラン人官僚群またはイラン系王朝が実権を握り、その中で主にイラン人によって文化が花開き、国際的な商業も活発に展開された全盛期

イラン人によるＳＳの肉体的大成長
(イラン人の自主的・漸進的イスラム改宗)

アラブ人の衰退・イラン人の台頭

アラブ人によるＳＳの骨格形成

アラブ人の圧倒的優位

アラブ人とイラン人の勢力圏境

イラン系半独立地方王朝全盛
(サーマーン朝・ガズニー朝などで文化が開花)

中央に進出したイラン系王朝

ブワイフ朝

大セルジューク朝

マリク＝シャー
ニザーム＝アル＝ムルク
黄金時代

急速に衰退

ハサン＝サッバー
シーア派過激派暗殺団

トルコ系諸王朝による分割支配
"アター＝ベク国家" ホラズム＝シャー朝
ルーム＝セルジューク朝

十字軍

蒙古

蒙古来襲

ウマイヤ朝

正統カリフ時代
(大征服時代)

アラブ統一

アッバース朝

黄金時代

体制の動揺
(マムルーク軍団・各地で反乱)

サーマッラー遷都時代

"イスラム帝国"
・ムスリム平等の原理
・文治対内発展路線
・農業を財政基盤に

〈アラブ〉特権喪失
・徴士の俸給停止

〈異民族＝イラン人〉
・改宗促進
・国政枢機に進出
・首都都市に定住許可

〈国家〉充実

商人へ転身 →商業大発展

ＳＳの担い手に

実権掌握へ

大都市発達

中央集権化進行

"アラブ帝国"
・アラブ人は支配民族(特権階級として君臨)
・領土拡大(対外征服)
& 収奪(徴税徹底)
・非在服民に重税

(ウマル二世)改宗奨励

税制平等化政策

(ウマル二世)

アッバース朝成立

(ウマル二世)改宗奨励

(ウマル二世)税制平等化政策

ウマル二世即位 税制平等化政策

アッバース朝黄金時代

ムスリム(改宗イラン人)の台頭

アッバース革命

ウマイヤ朝打倒のスローガン

ウマイヤ朝成立(ムアーウィヤ)
→カリフ位の世襲始まる
第一次内乱(イラン人・異民族ムスリムの不満)
→サッファーフ(アブー＝アル＝アッバース)
アッバース朝の成立

(ウマイヤ朝)
第二次内乱
→イラン人台頭への反発となる
第一次内乱
→(ウマイヤ朝)
第二次内乱
→イラン人台頭への反発となる

アッバース革命

ムスリム平等化
→イラン人台頭
アッバース革命

ターヒル朝(半独立)にイラン人進出
ムスリム平等化
→イラン人の台頭
アッバース革命

トゥールのヘンリー(ヘンリー四世)
(アラブ人ヘンリー)
ヘンリー四世(ドイツ)
ハインリヒ四世(ドイツ